

## ◆ 地域活動の活性化について

## ① 合同通信三田会組織化による活性化推進

- ★ 各地域内の問題点を共有し、改善への知恵を出し合い活動の活性化へ。
- ★ 東海、中・四国、九州、北関東、北陸、関西各地区で活動中。
- ★ 東北地区の組織化、北海道の札幌以外の地域活性化の実施。

※地域の自主的活動で、形式、拘束的なものではない。

## ② 慶友会との連携、科目試験、講師派遣制度の活用。

- ★ 卒業生の高齢化、後継者育成対策の効果的手段の 1 つ。

## ③ 通信三田会の基本的枠組みの徹底と確認

- ★ 都道府県単位（県内組織含む）を基本に、入会希望者は選択入会が出来る。

※露骨な入会勧誘は、避ける。

## ◆ 年度三田会の整備組織化の提案

## ① 慶應義塾では、卒業 25 年で入学式へ、卒業 50 年で入学式に塾員を招待する制度がある。

しかし、通信卒者は、殆どどの卒業生が偶然の同期生であり、知人も少ない。また、9 月卒生は、卒業式が翌年となり同期生の認識が薄い。

## ② 通学課程においては、20 年前より組織化が準備されている。通信卒者グループに於いては有志による呼びかけをし、組織化しているのが現状。

## ③ 通信卒者グループにも年度三田会代表委員の選定依頼が来る。

特に、卒業生の多い関東地区を中心に組織化の必要がある。（三田での会議出席が可能）

地方では、同期生卒業生が少ないか皆無なので呼びかけが少ない。

## ③ 全国通信三田会組織内に年度三田会役員の新設を提案する。

## ◆ 幹事会欠席者の報告書送信の義務化を

## ① 幹事会欠席の代表者は、報告書を出欠連絡と共に添付送信することを義務化する。

## ◆ 特別提案事項

秋期幹事会と同日時での会儀、交流会の自粛、節度ある行動を呼びかける

以上